

物理学委員会・総合工学委員会合同IUPAP分科会議事要旨

(第25期・第1回)

日 時 令和3年1月26日(火) 17:00~19:00

会 場 遠隔会議

出席者 荒川、伊藤(公平)、梶田、河野、桑野、笹井、田村、野尻、藤澤(敬称略)
(オブザーバー) 伊藤(好)、大谷、緒方、杉山、高橋(尚)、高橋(義)、長嶋、村上、横山(敬称略)

欠席者(オブザーバー) 永長(敬称略)

1. 委員紹介、オブザーバー紹介

2. 委員長、副委員長、幹事の決定について

委員長：藤沢彰英(九州大、C16)が互選された。副委員長：笹井理生(名大、C6)、
幹事：伊藤公平(慶応大、総合工学)が指名、承認された。

3. 前期の活動、今期の学術会議・物理学委員会の状況について

野尻委員より、今期の非任命問題に発した日本学術会議および政府間の経緯について説明があった。井上大臣からは、日本学術会議の設置形態について12月に政府へ報告するよう要請されていたが、報告は4月に延期されたことが説明された。その経緯を示した物理学会誌への記事が紹介された(資料1)。また、物理委員会については、野尻委員から物理学委員会に就任した経緯について簡単な説明があった。

4. IUPAP C&CC の状況説明

2020年10月13-21日、オンラインにより開催された。資料2(C17chair 尾崎先生作成)に基づき、笹井委員よりIUPAP現状の説明があった。○ 2020年10月に北京で予定されていた30回 General Assembly(GA)は2021年10月20-22日に延期(開催できないときのプランBについては、検討中)。○ GAの延期に伴い、現在のコミッション委員任期は2021年12月まで延長。新委員の選出は1年延期で、3月11日から各国のリエゾン委員会と各コミッションで名簿作成開始、リエゾン委員会およびコミッションからの回答は、それぞれ、6月11日、8月30日締め切り、そのほかの議題提案について締め切りは6月18日。31回GAは、IUPAP100周年記念を兼ねて2023年にパリで開く予定は変更なし。○ IUPAP本部が南洋工科大学(シンガポール)より移動。ジュネーブのCERN他、インド、韓国などが候補となっており、現在検討中。また、AAPPS (Association of Asia Pacific Physical Societies) 会長としてC&CCに出席した横山委員よりC&CC会議の雰囲気についての報告があった。

5. IUPAP 各コミッション等の状況について

各コミッションの状況報告ファイル(資料3)を参照して確認した。日本からのCommission委員長の数、日本で開催されたIUPAP関連の国際会議など年度末にIUPAP分科会から学術会議に報告する必要がある。

6. 次期委員選考と推薦の方針について

野尻委員より説明があった。日本は15人のシェアがあるが、それ以上の推薦をすべきこ

と、女性比率を高くすることがIUPAPより強く求められており、新しく委員を推薦するコミッションは、新任委員候補は2人以上出して女性比率を考慮して欲しいとのこと。

7. IUPAP 総会後の委員の追加について

第30回GAでの新コミッション委員の決定後、委員またはオブザーバーとしてIUPAP分科会に参加していただくこと野尻委員より提案され、承認された。

8. 関係学協会との協力について

日本生物物理学会との協力について、笹井委員から提案（資料4）があり承認された。

9. IUPAP 100周年の対応について

IUPAP 100周年へのIUPAPの状況の説明があり日本学術会議としての対応が議論された。

IUPAPではWG17が対応している。WG17メンバーの野尻委員より、WG17の状況について報告があり、CERNで集会をするプランがあったが、議論はあまり進んでいないとのこと。各国で企画を進める必要あるとことが述べられた。

日本でのシンポジウムなどの計画、対応について検討するためのグループをつくることで合意した。検討グループでは、日本学術会議と(1) 物理学会との関係について、(2) AAPPSとの連携、(3) 他分野との連携の可能性を含め、今後の方針を議論する。メンバーは、野尻、藤澤、伊藤（公）、笹井、横山、田村、永長）で発足、状況に応じて追加メンバーを加える。

以下のような意見やコメントがあった。

○ C4では2年前より百周年対応についての連絡があった（伊藤（好）委員）。

○ 周期律表150周年のときはIUPACと協力し、高校生から作文を募集して反響があった。

宣伝効果やインパクトを上げるためには誰を対象とするかは重要である（田村委員）。

○ 国際光年のときも大きな反響があった（荒川委員）

○ 2022年はInternational Year of Basic Sciences for Sustainable Developmentが企画されているので、これを含めて他分野と連携して企画を行うとよいかもしれない（荒川委員、野尻委員）

10. その他

分科会委員間のメールアドレスの共有と議事要旨の委員長に一任することが承認された。

配布資料

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 資料1 | 物理学会誌原稿 |
| 資料2 | C&CCミーティングアジェンダ |
| 資料3 | IUPAP 状況報告フォーム（回答） |
| 資料4 | 日本生物物理学会と日本学術会議IUPAP分科会の協力について（案） |